

縄文人の心と文化

～自然との
共生を探る～



教育委員会 学芸員 角田 隆志

入 江貝塚からまわりを眺める
とき、当然山や海が見えま

す。誰もがわかる有珠山や噴火
湾の向こうに見える駒ヶ岳。ぐ
るつと見渡せば見渡すほどに、
私たちは自然に囲まれて暮らし
ていると改めて感じます。

アイヌの人たちは、特徴のあ
る地形のところには名前をつけ
ていました。例えば「オタモイ」
といえは「砂浜の入江」という
意味になります。「ボンシレット」
は「小さい岬」。いずれも有珠
との境あたりの地名でした。

こうした地名をつけるのは、
身近なところにある自然を自分
たちの生活の一部として考えて

いたからといえるでしょう。

ちなみに、入江貝塚から朝日
はどこから昇ってどこに沈むの
かご存知でしょうか。朝日は有
珠山を中心として、春分の日
は山頂付近から、冬至は山の右
の裾野、夏至は西山火口のあたり
から昇ります。

有珠山の形こそ変わっていま
すが、こうした風景はまさに縄
文人が見たときと変わることは
ありません。そして、それは狩
猟や漁労を生業としていた縄文
人にとって、時期を知る手段で
もあったと考えられます。

貝や木の実だけではなく、魚
や獣も捕獲するシーズンがあり



高砂貝塚(縄文時代後期・約4,000年前)

ます。縄文人たちはそれを知っ
ていました。貝塚から見つかる
ウニの殻や魚の骨がまとまって
層をなしているのは、その証拠
です。私たちも旬のものを求め
ますが、縄文時代と違うのは、
とりすぎることで、自然への恩
恵の念が薄れているということ
ではないでしょうか。アイヌの
人たちによって語られたユーカ
ラには、自然を大切にしないこ
とを戒める内容のものがありま
す。

環境問題が叫ばれている昨今
ですが、環境を守るというのは
身近にある自然を再認識するこ
とだということを強く感じます。

オープン 第1回 とうや湖 観光朝市

昨年に引き続き「とうや湖観光朝市」を開設いた
しました。洞爺湖町の産物や洞爺湖周辺の特産
物を新鮮でかつ格安に提供しています。

■開設日 9月28日(日)まで毎週日曜日

■会場 洞爺湖遊歩道 駅前棧橋前

■アクセス バス(行き 洞爺駅7:28～洞爺湖
温泉7:45)(帰り 洞爺湖温泉8:57～洞爺駅9:16)

■開設時間 午前6時～午前8時

●5月25日は、洞爺湖マラソンが開催されること
から、午前6時から午後3時まで開きます。

※7月6日については、サミット開催に伴いお休み
とさせていただきます。

4 月26日教育委員会の主催で、
今年初めて縄文キッズ遺跡
調査を、洞爺地区の浮見堂遺跡
周辺で行い、虻田小学校の児童
約20人が参加しました。

同所は、縄文早期(7千年前)
から晩期(2千年)までの土器
の破片が見つかったところ。
児童らは、何とか遺物を見つ
けようと、湖畔の波うち際を目
を凝らして探し、遺物と思われ

る石や木片などを見つけては、
角田学芸員に何度も確認してい
ました。



目を凝らして遺物を探す児童ら

今年第1回の
縄文キッズ

浮見堂遺跡周辺
を調査